

## 第2章

支援を必要とする子どもを  
取巻く町田市の状況

## 第2章 支援を必要とする子どもを取巻く町田市の状況

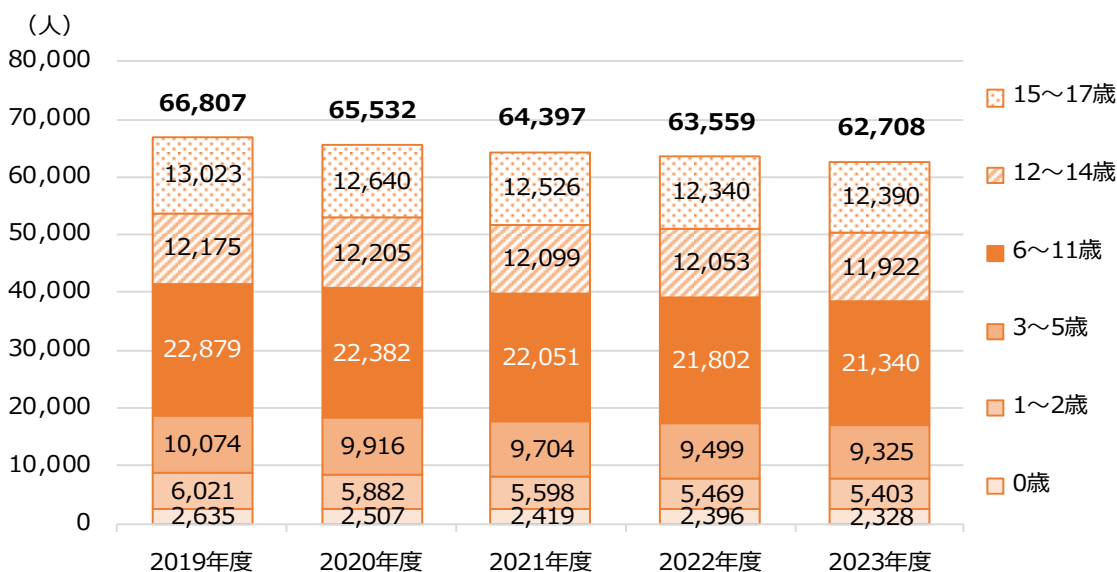
### 1. 支援を必要とする子どもの状況

町田市において、18歳未満の人口は減少傾向にあります。支援を必要とする子どもは増加傾向にあります。

#### (1) 18歳未満の人口推移（年齢別）

18歳未満の人口は、全体的に減少傾向にあります。

■ 18歳未満の年齢別人口推移（4月1日時点）

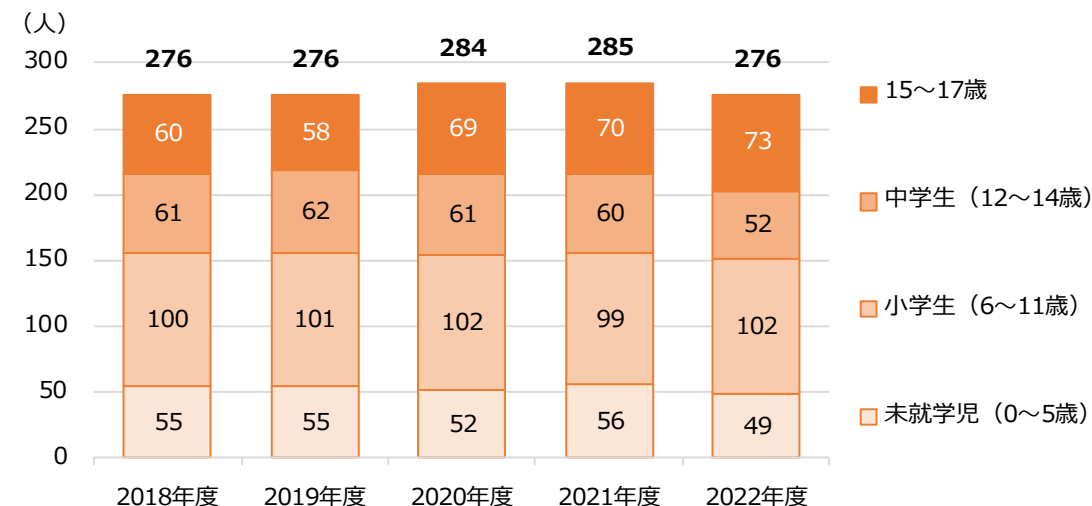


資料：住民基本台帳

#### (2) 身体障害者手帳所持児童数

身体障害者手帳の所持児童数は、横ばいで推移しています。

■ 身体障害者手帳所持児童数

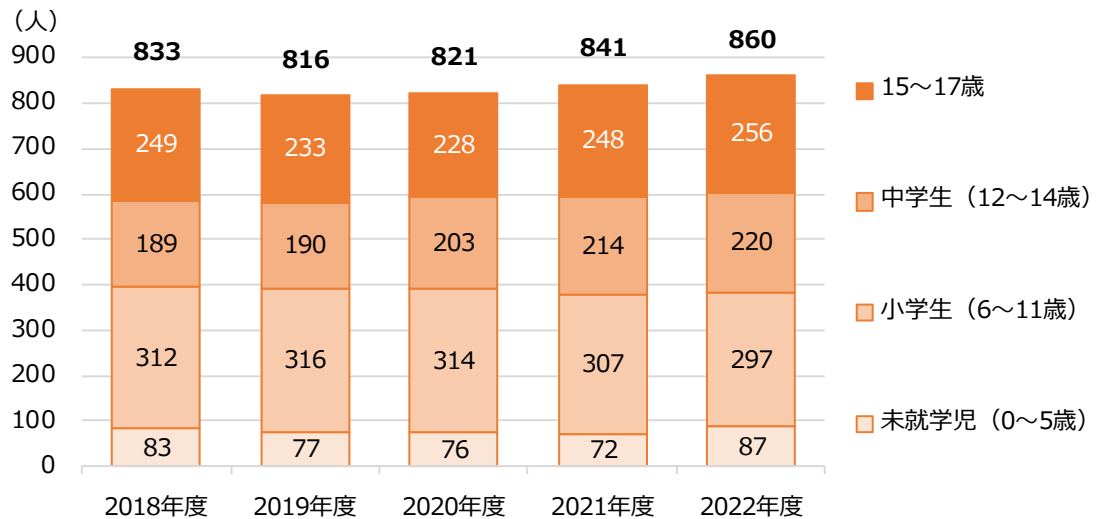


資料：町田市地域福祉部障がい福祉課

### (3) 愛の手帳（療育手帳）所持児童数

愛の手帳（療育手帳）の所持児童数は、若干増加しています。

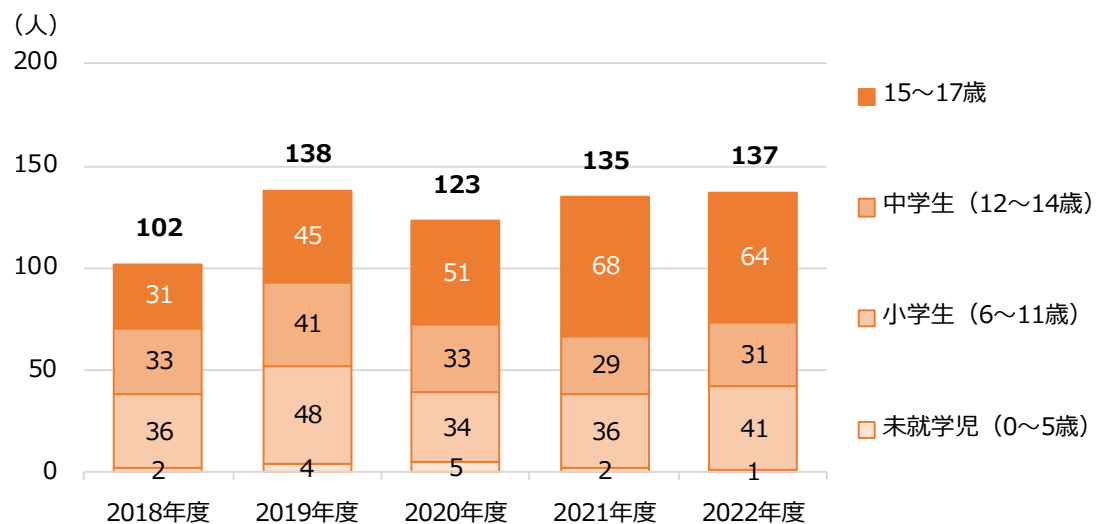
■ 愛の手帳（療育手帳）所持児童数



### (4) 精神障害者保健福祉手帳所持児童数

精神障害者保健福祉手帳の所持児童数は、2022年度は137人で、2018年度の102人から1.3倍程度となっています。

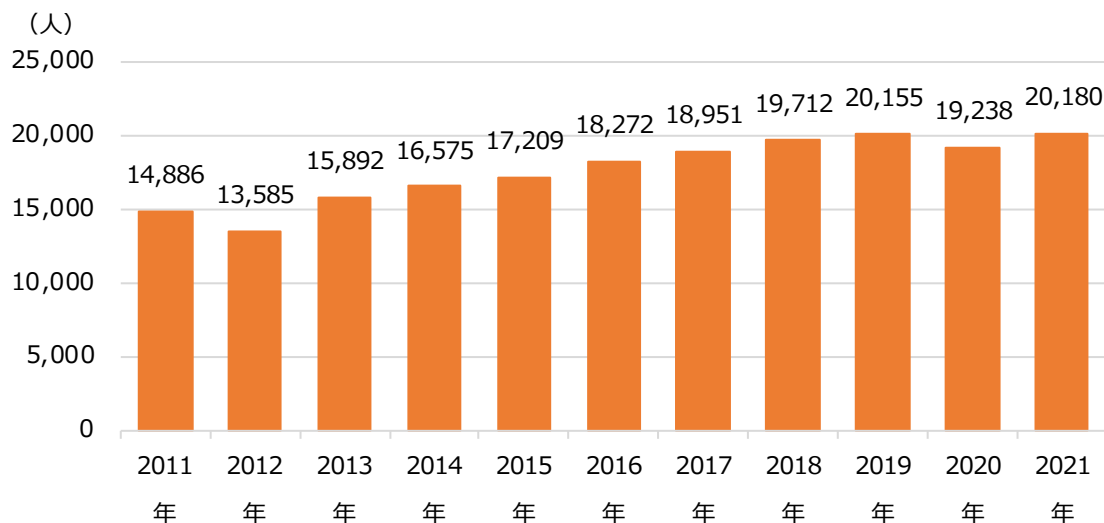
■ 精神障害者保健福祉手帳所持児童数



## (5) 全国における医療的ケア児数

全国における医療的ケア児数は、増加傾向にあり、2021年度は20,180人で、2011年度の14,886人から1.4倍程度となっています。

■ 在宅の医療的ケア児の推計値（0～19歳）



資料：厚生労働省

## (6) 町田市における小・中学校等に在籍する医療的ケア児数

■ 町田市の公立小・中学校・特別支援学校における医療的ケアが必要な児童・生徒数

(人)

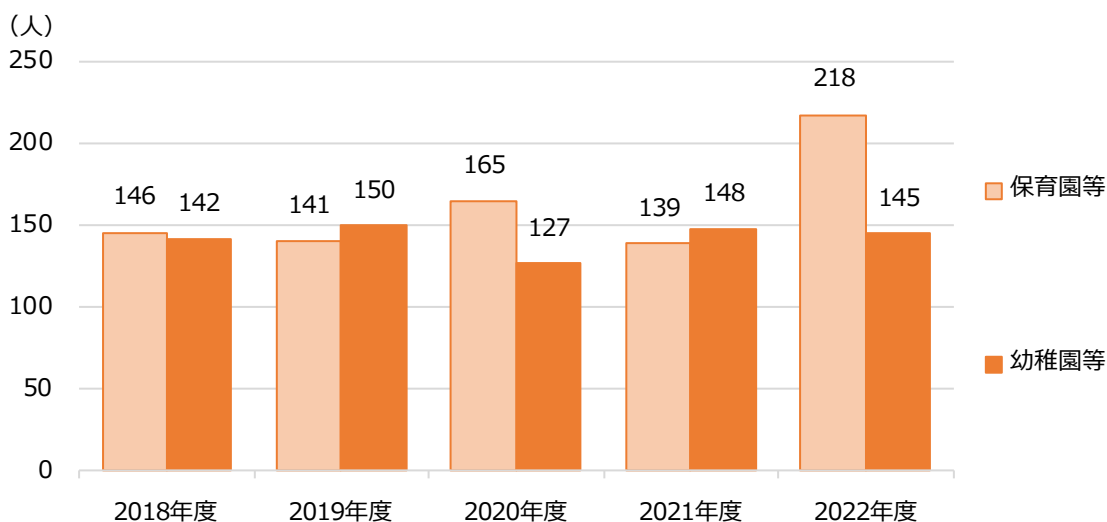
		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
小学校	通常学級	0	0	2	2	3
	特別支援学級	0	0	0	0	0
中学校	通常学級	0	0	0	0	0
	特別支援学級	0	0	0	0	0
特別支援学校	小学部	2	4	11	15	17
	中学部	3	4	3	1	0
	高等部	5	5	3	3	4

資料：町田市教育委員会学校教育部/東京都立町田の丘学園

## (7) 保育園・幼稚園等を利用する加配の対象児童数

保育園・幼稚園等に通園し、保育士等の加配の対象となっている児童数は、保育園等で施設整備が進んだことで増加傾向にあり、2022年度は218人で2018年度の146人から1.5倍程度となっています。

■加配の対象となっている児童数の推移



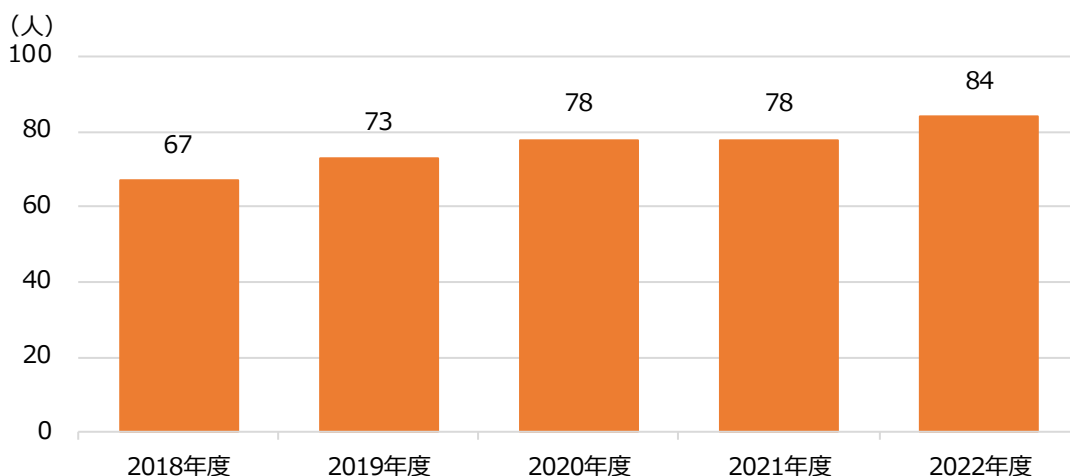
資料：町田市子ども生活部保育・幼稚園課（4月1日時点）

※保育園等・・・公立・民間保育園、認定こども園（2・3号児）、小規模、家庭的幼稚園等・・・幼稚園・認定こども園（1号児）

## (8) 学童保育クラブにおける指導員の加配対象児童数の推移

学童保育クラブにおける指導員の加配の対象となっている児童数は、増加傾向にあり、2022年度は84人で2018年度の67人から1.3倍程度となっています。

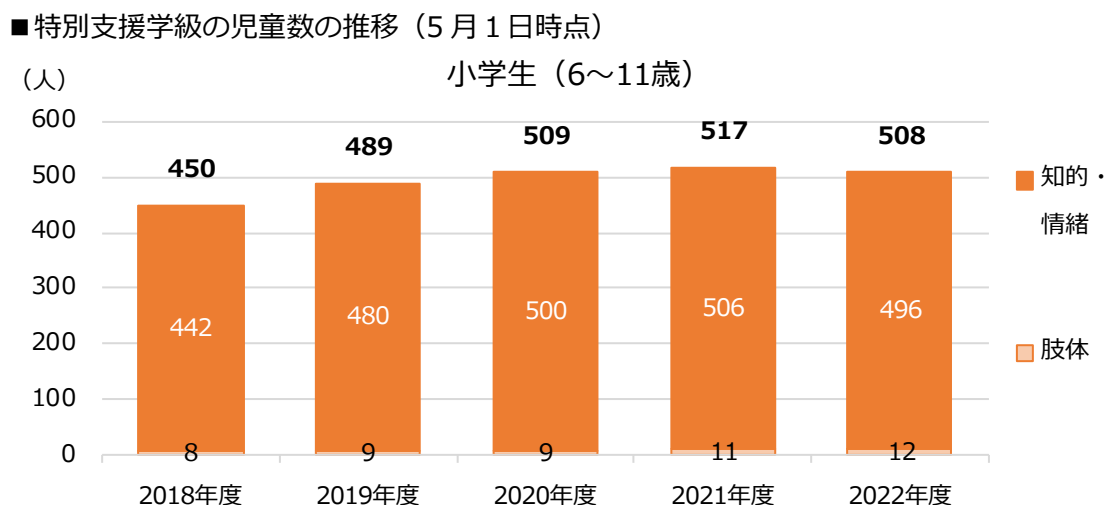
■学童保育クラブにおける指導員の加配対象児童数の推移



資料：町田市子ども生活部児童青少年課

## (9) 特別支援学級の児童数の推移（小学校）

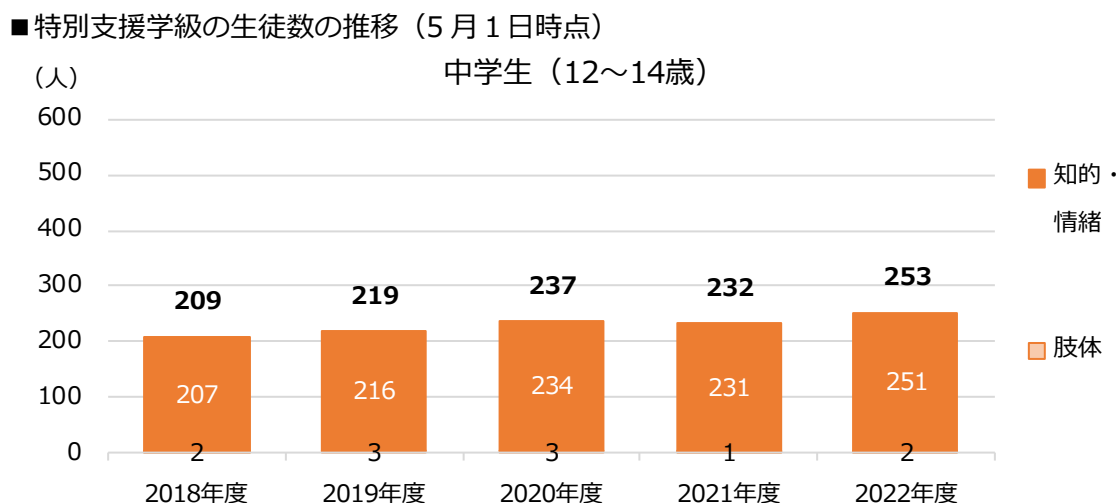
小学校の特別支援学級に在籍する児童数は増加傾向にあり、2022年度は508人で、2018年度の450人から1.1倍程度となっています。



資料：町田市教育委員会学校教育部教育センター

## (10) 特別支援学級の生徒数の推移（中学校）

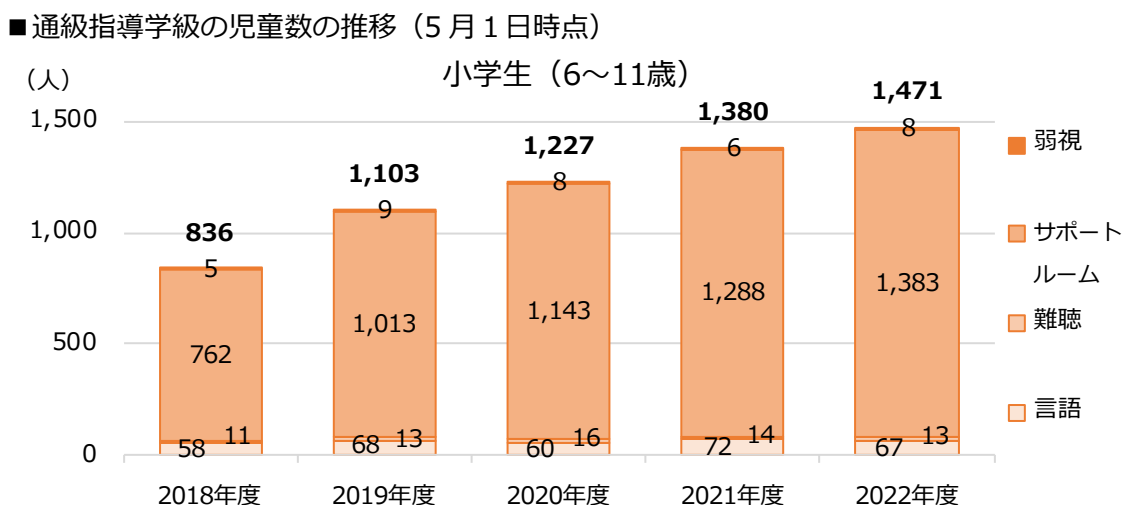
中学校の特別支援学級に在籍する生徒数は増加傾向にあり、2022年度は253人で、2018年度の209人から1.2倍程度となっています。



資料：町田市教育委員会学校教育部教育センター

## (1 1) 通級指導学級の児童数の推移 (小学校)

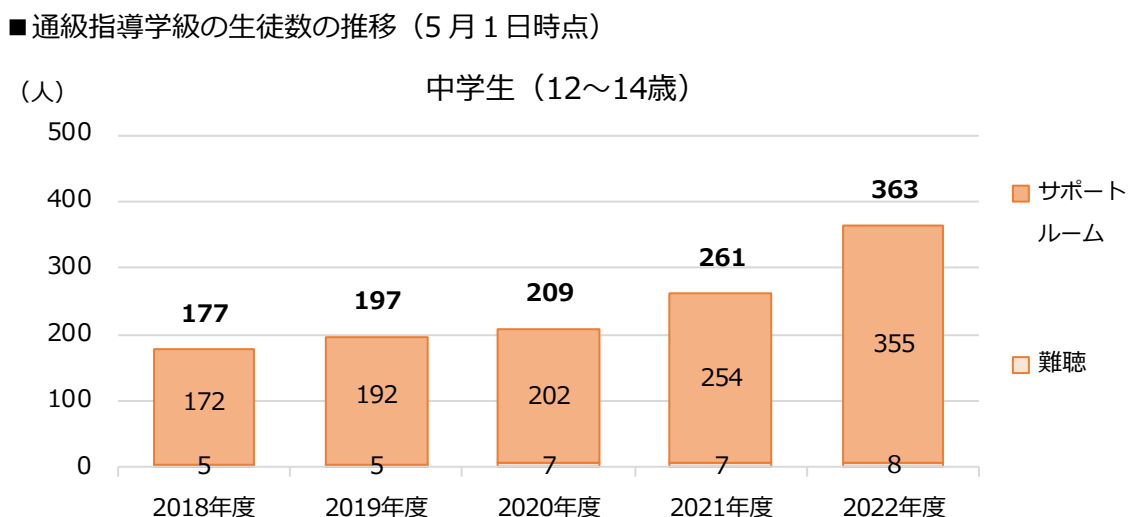
小学校の通級指導学級に在籍する児童数は増加傾向にあり、特にサポートルーム利用児童数は、2022年度は1,383人で、2018年度の762人から1.8倍程度となっています。



資料：町田市教育委員会学校教育部教育センター

## (1 2) 通級指導学級の生徒数の推移 (中学校)

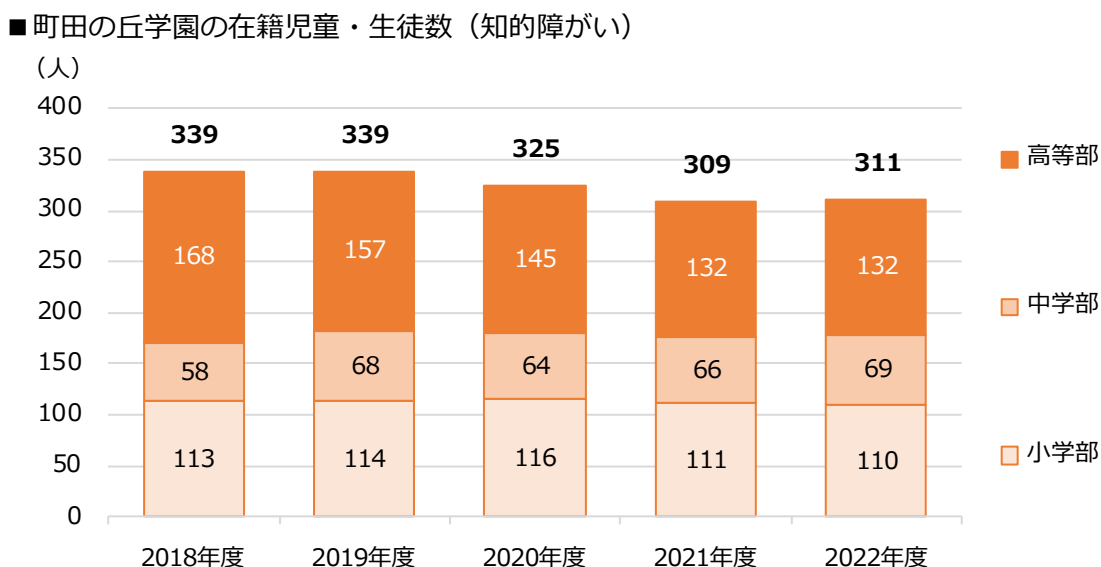
中学校の通級指導学級に在籍する生徒数は増加傾向にあり、特にサポートルーム利用生徒数は、2022年度は355人で、2018年度の172人から2.1倍程度となっています。



資料：町田市教育委員会学校教育部教育センター

### (13) 町田の丘学園の在籍児童・生徒数（知的障がい）

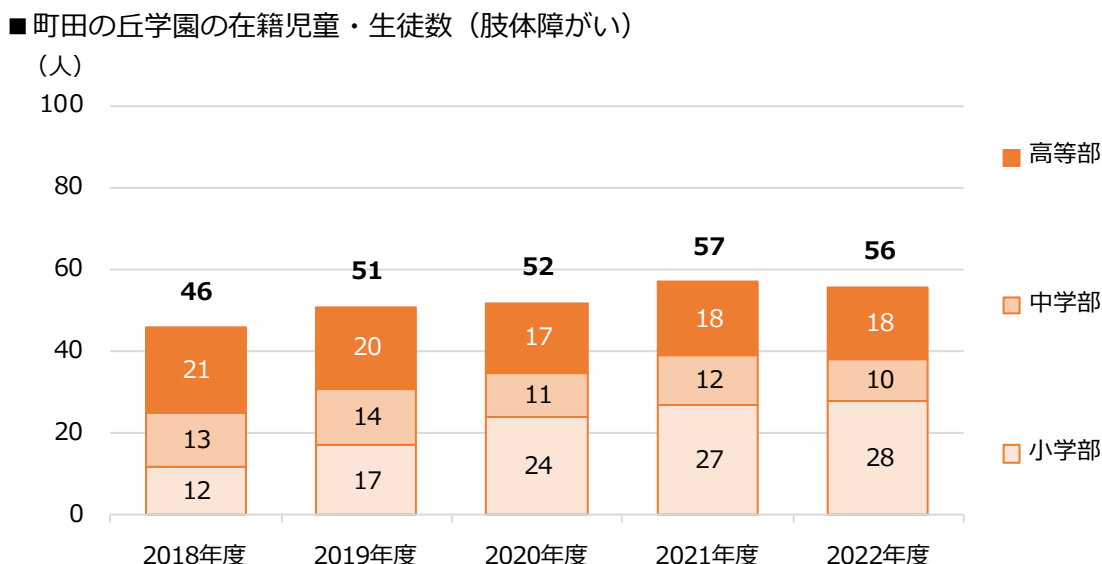
町田の丘学園の「知的障害教育部門」に在籍する児童・生徒は、減少しており、2022年度は311人で、2018年度の339人から0.9倍程度となっています。



資料：東京都立町田の丘学園

### (14) 町田の丘学園の在籍児童・生徒数（肢体障がい）

町田の丘学園の「肢体不自由教育部門」に在籍する児童・生徒は、増加しており、2022年度は56人で、2018年度の46人から1.2倍程度となっています。



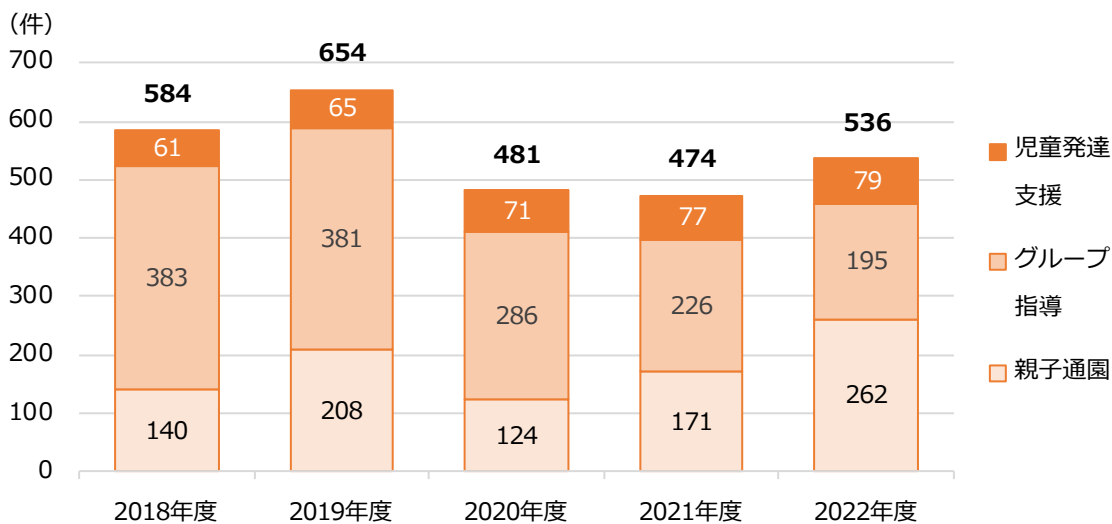
資料：東京都立町田の丘学園



## (15) 子ども発達センターにおける療育サービスの利用状況

子ども発達センターにおける療育サービスの利用件数は、2022年度は536件で2018年度の584件より減少していますが、2021年度の474件と比較すると増加しています。

■ 子ども発達センターにおける療育サービスの利用件数の推移



資料：町田市子ども生活部子ども発達支援課



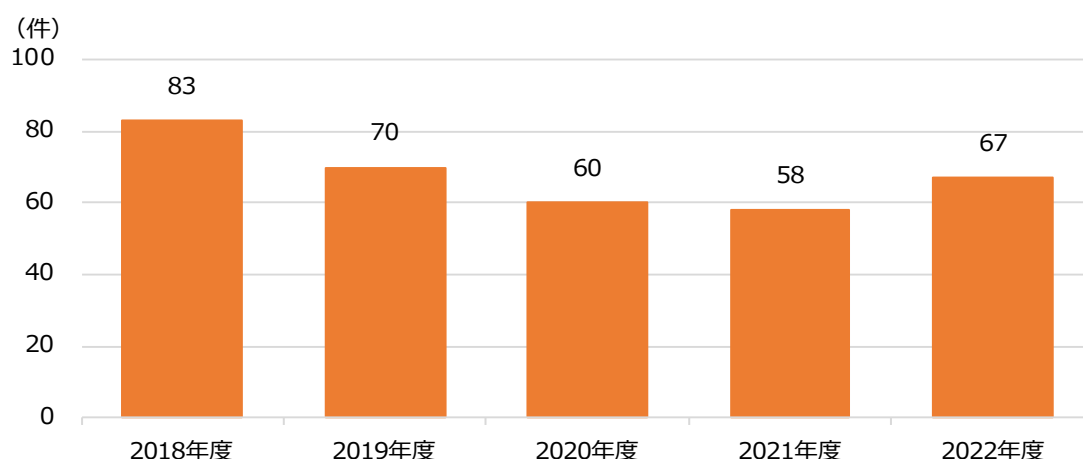
## 2. 支援に関する相談の状況

相談支援については、相談の内容により、件数の増減に違いが見られます。

### (1) 保健予防課の保健師への相談件数（心身障がい）

保健予防課の保健師への心身障がいに関する相談件数は、2022年度は67件で、2018年度の83件より減少していますが、2021年度の58件と比較すると増加しています。

■心身障がいに関する相談件数の推移

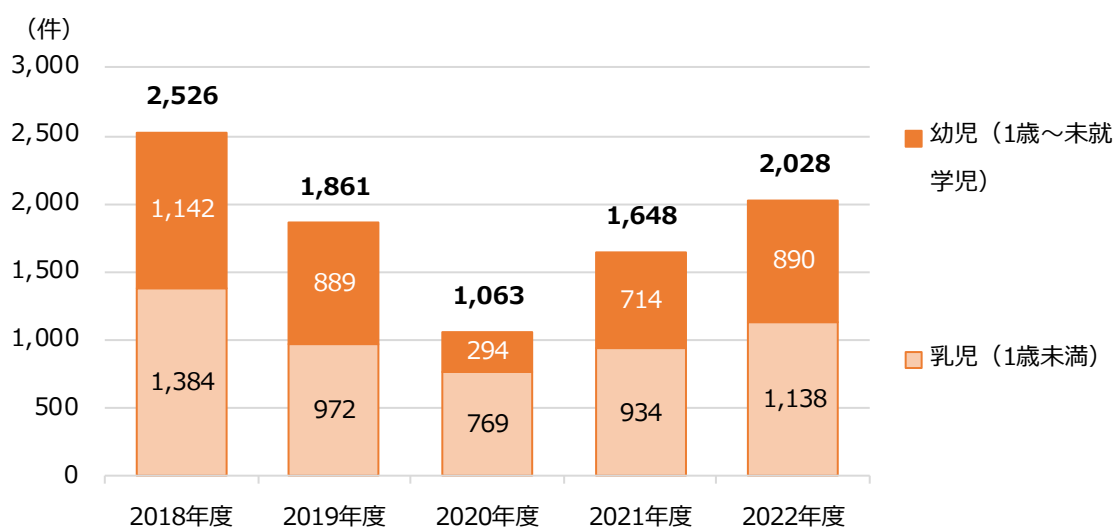


資料：町田市保健所保健予防課

### (2) 保健予防課の保健師への相談件数（乳幼児）

保健予防課の保健師への乳幼児に関する相談件数は、2022年度は2,028件で、2018年度の2,526件より減少していますが、2021年度の1,648件と比較すると増加しています。

■乳幼児に関する相談件数の推移

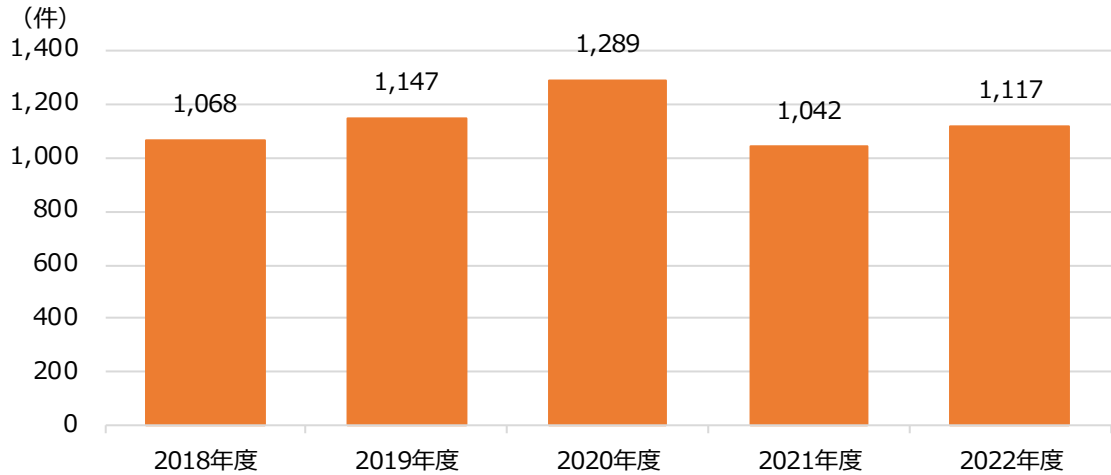


資料：町田市保健所保健予防課

### (3) 子ども発達センターへの相談件数

子ども発達センターへの相談件数は、横ばい傾向にあります。

■ 子ども発達センターへの相談件数の推移

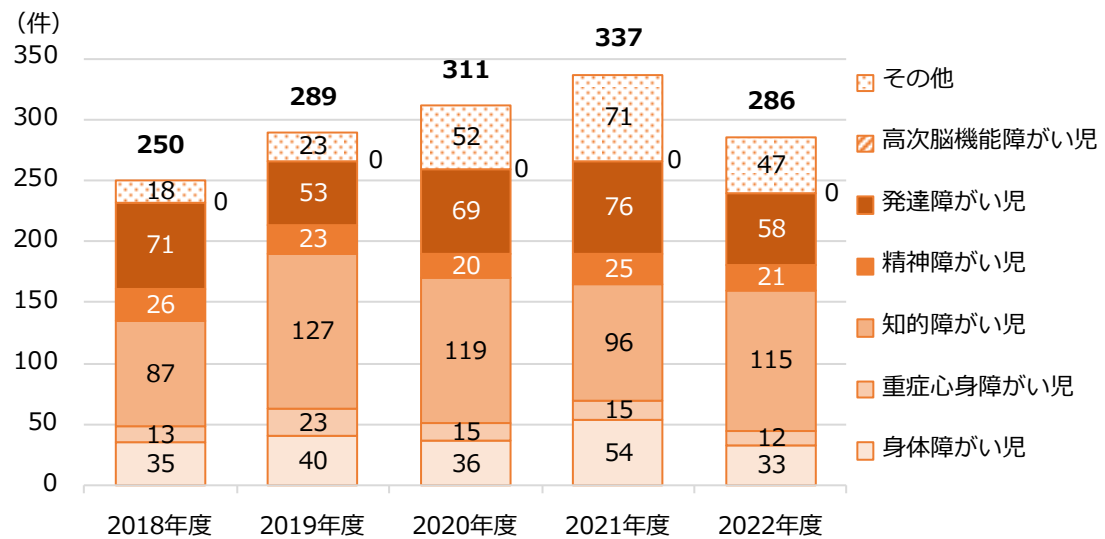


資料：町田市子ども生活部子ども発達支援課

### (4) 障がい児相談支援の利用状況

障がい児に関する相談合計件数は、2022年度は286件であり、2018年度の250件より増加していますが、2021年度の337件と比較すると減少しています。

■ 障がい児に関する相談件数の推移

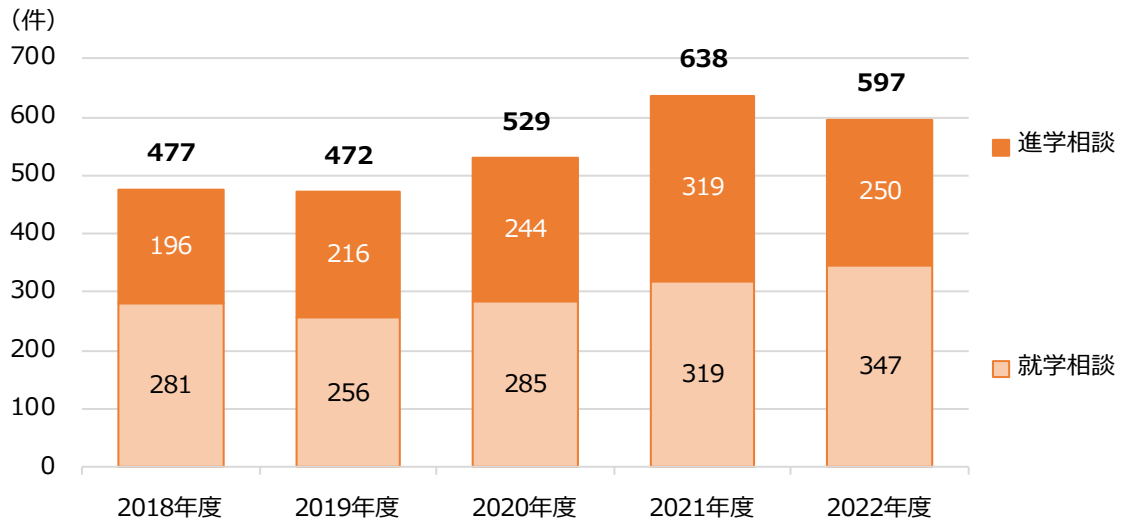


資料：町田市地域福祉部障がい福祉課

### (5) 教育センターへの相談件数（就学相談・進学相談）

就学相談及び進学相談件数は、2022年度は597件で、2018年度の477件より増加していますが、2021年の638件と比較すると減少しています。

■ 就学相談・進学相談の推移

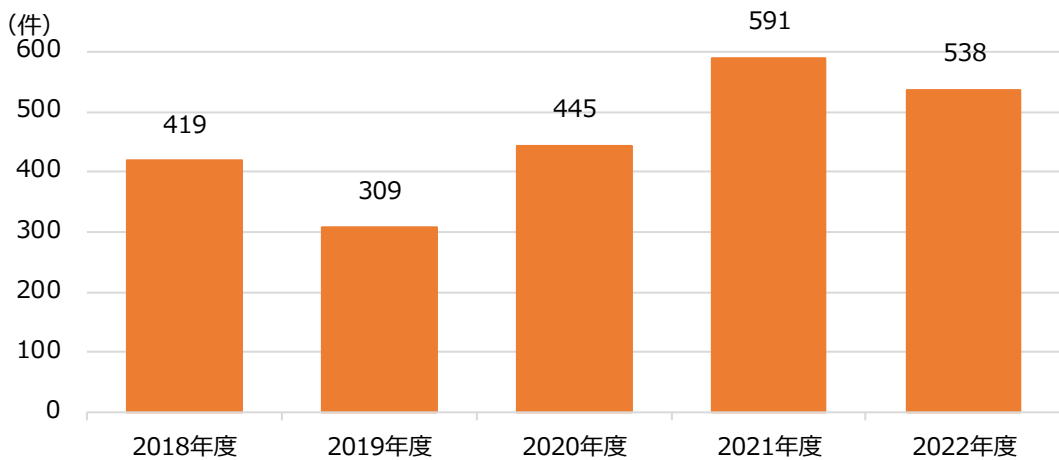


資料：町田市教育委員会学校教育部教育センター

### (6) 教育センターへの相談件数（教育相談）

教育相談のうち、発達障がいに関する相談件数は、2022年度は538件で、2018年度の419件より増加していますが、2021年度の591件と比較すると減少しています。

■ 教育相談のうち、発達障がいに関する相談件数の推移



資料：町田市教育委員会学校教育部教育センター

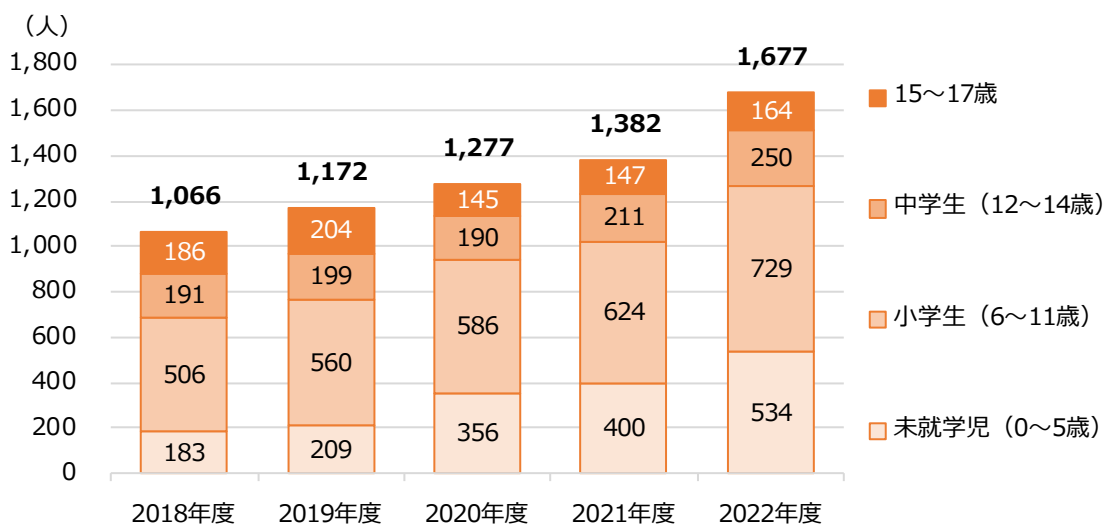
### 3. 障害児サービスの利用状況・提供体制

障害児サービスの利用状況・提供体制は、どちらも増加傾向にあります。

#### (1) 障害児通所受給者証取得児童数

障害児通所受給者証を取得する児童数は増加傾向にあり、特に「未就学児（0～5歳）」と「小学生（6～11歳）」で大きく増加しています。

■ 障害児通所受給者証取得児童数の推移（3月31日時点）

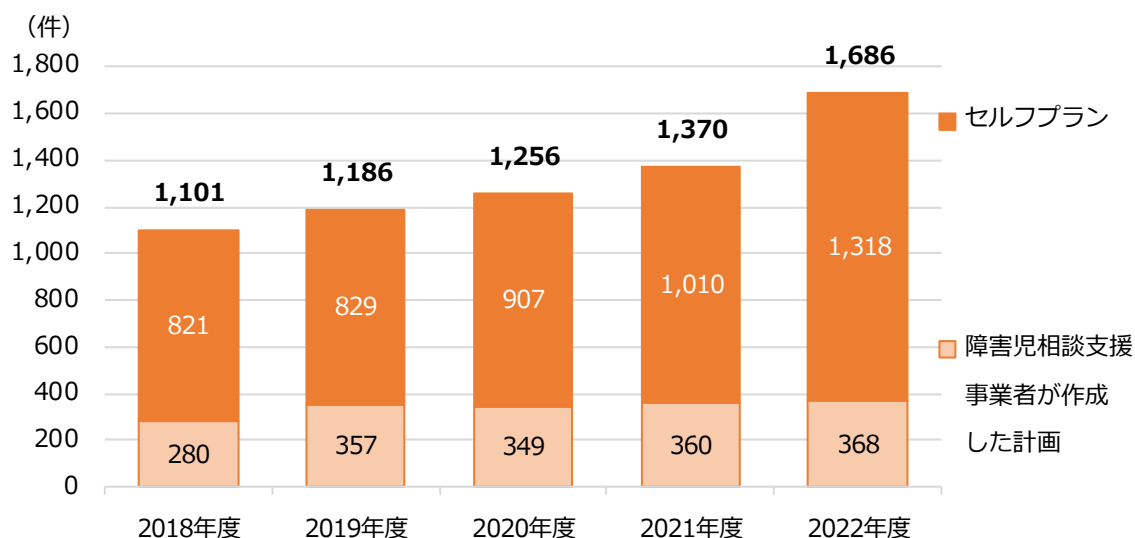


資料：町田市地域福祉部障がい福祉課

#### (2) 障害児支援利用計画の作成状況

障害児支援利用計画の合計作成件数は、増加傾向にあり、2022年度は1,686件で、2018年度の1,101件から1.5倍程度となっています。

■ 障害児支援利用計画の作成件数の推移（3月31日時点）



資料：町田市地域福祉部障がい福祉課

### (3) 障害児通所支援・障害児相談支援の提供体制（事業所数）

障害児通所支援を行う事業所は、2023年度で児童発達支援が15か所、放課後等デイサービスが46か所あり、放課後等デイサービスは増加傾向にあります。

保育所等訪問支援は町田市子ども発達センターが行っています。

障害児相談支援を行う事業所は、2023年度で15か所あり、増加傾向にあります。

#### ■ 障害児通所支援等 事業所数（4月1日時点）

（か所）

	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
児童発達支援センター	2	2	2	2	2	2
児童発達支援	9	9	9	10	9	15
（うち重症心身障がい児を 対象とする施設）	1	1	1	1	1	1
居宅訪問型児童発達支援	0	0	1	1	1	1
放課後等デイサービス	31	30	32	34	39	46
（うち重症心身障がい児を 対象とする施設）	2	2	2	2	2	3
保育所等訪問支援	1	1	1	1	1	1
障害児相談支援	8	12	11	12	14	15

資料：町田市子ども生活部子ども発達支援課

## 4. アンケート・ヒアリング調査の整理

### (1) アンケート調査概要

市内の障がい児の生活状況や福祉サービスの利用状況・課題等を把握し、計画策定の基礎資料を作成することを目的として、以下のとおりアンケートを実施しました。

#### ■ 調査対象者

調査名		対象者
保護者調査		障害者手帳所持・受給者証所持・子ども発達センター親子通園・グループ指導利用児童 <sup>※</sup> の保護者
子どもへの調査		中学生以上の障害者手帳所持・受給者証所持児童 <sup>※</sup>
関係機関	管理者調査	保育園・幼稚園・認定こども園・公立小中学校の管理者
	従事者調査	保育園・幼稚園・認定こども園・公立小中学校の従事者
事業所調査		児童発達支援・居宅訪問型児童発達支援・放課後等デイサービス・障害児相談支援事業所の管理者

※同一世帯に該当する児童が複数いる場合（例：兄弟姉妹で障害者手帳、受給者証を所持している）は、最も年齢の高い児童のみ

#### ■ 調査方法・回収状況

調査名	配布方法	回答方法	発送数	郵送回収数	WEB回収数	回収数	回収率	回答期間
保護者調査	郵送	郵送・WEB	1,859件	363件	635件	998件	53.7%	2023年 7月7日 ～21日
子どもへの調査			674件	82件	180件	262件	38.9%	
関係機関	郵送	郵送・WEB	181件	38件	55件	93件	51.4%	
	従事者調査		郵送	WEB	181件	-	80件	
事業所調査	郵送	WEB	78件	-	36件	36件	46.2%	

### (2) ヒアリング調査概要

子どもの発達支援に関する課題や、アンケート結果から推測される課題の事実確認を行うとともに、アンケートだけでは把握できない隠れた課題に関する意見を確認し、市の施策の優先度を判断するための基礎資料とすることを目的として、以下を対象に2023年8月から10月にヒアリングを実施しました。

実施日	実施対象
8/22	町田市福祉懇談会代表
8/23	町田市立中学校長会代表
8/23	町田市民病院
8/31	町田市立小学校長会代表
9/5	東京都立町田の丘学園（生徒・教員）
9/8	町田市私立幼稚園協会
10/4	町田市医師会
書面実施	町田市法人立保育園協会

### (3) 調査結果のまとめ

#### <子どもの生活状況・地域社会とのつながり>

##### 新型コロナウイルス流行

- 新型コロナウイルス流行による子どもの外出状況の変化について、全体で見ると「外出機会が減った」は 60.3%、「外出機会が増えた」は 1.0%、「変化はない」が 38.3%でした。(保護者調査)

##### 子どもの外出や社会参加

- 子どもの外出や社会参加における不安や心配の有無について、不安や心配が「ある」は 79.5%、「ない」は 19.9%でした。(保護者調査)
- 子どもの積極的な社会参加に大切なことについて、「どの子どもにも分け隔てなく接してくれる大人」の存在が 65.1%で最も高く、次いで「共に遊んだり学んだりする友だちやサポートしてくれる先輩などの存在」が 56.3%でした。(保護者調査)

##### 子どもが感じる幸福度・子どもの意見の尊重

- 子ども自身が思う幸福度は 72.2%でした。「(「そう思う」31.7%と「どちらかといえばそう思う」40.5%の合計) (子どもへの調査)
- 子どもの意見を尊重しているかについて、「常に子どもの意見を尊重している」は 18.9%で、「内容によって子どもの意見を尊重している」が 73.6%、「あまり尊重していない」が 2.6%となっています。(保護者調査)

#### <発達支援に関する相談・連携の状況及び体制>

##### 発達支援に関する相談先

- 発達支援に関して保護者が最初に相談した機関は、「子ども発達センター(旧すみれ教室)」が 58.0%と最も高く、次いで「かかりつけの医療機関」が 37.2%、「保育園や幼稚園、学校」が 20.6%でした。(保護者調査)
- 保護者が最初に相談した機関を知ったきっかけは、「乳幼児健康診査・保健所の紹介」が 30.0%と最も高く、次いで「保育園や幼稚園、学校の紹介」が 23.8%、「病院や診療所・薬局などの紹介」が 18.9%でした。(保護者調査)

##### 発達支援・障がい児支援における教育・保育施設との連携

- 気になる子に対する支援内容について、「保護者に施設・学校での生活状況を、他の子どもよりも丁寧に伝えている」が 93.0%と最も高く、次いで「保護者に専門機関への相談を促している」が 82.6%でした。(管理者調査)
- 保育園・幼稚園、学校が発達に支援が必要である、または障がいがある児童・生徒への対応について連携している専門機関として、「子ども発達センター」が 64.5%と最も高く、次いで「子ども家庭支援センター」が 61.3%、「教育センター」が 53.8%でした。(管理者調査)
- 「どこの部署に相談に行っても市側で情報の共有を行ってくれる、自身が多くの部署を回らなくて済む体制整備を希望する」という意見がありました。(ヒアリング調査)



## <支援・サービス利用状況及び提供体制>

### 支援・サービスの安定的な提供

- 事業所の直近3年間でのサービス利用ニーズの変化は「増えている」が61.1%でしたが、利用状況については「新規利用者の受け入れは難しい」が44.4%で最も高く、次いで「利用日数等を調整すれば新規利用者を受け入れられる」が33.3%でした。(事業者調査)
- 「放課後等デイサービス事業所は増加しているが、日数・時間制限がある」「事業所によっては新規受け入れを停止している」という意見がありました。(ヒアリング調査)
- 障害者手帳を持っている児童・生徒を保育園等に受け入れる際の課題に関して、「対応・支援を実施するための人的余裕がない」が61.3%と最も高くなっています。(管理者調査)
- 事業所における人材の確保状況に関して、「人員が不足している」が50.0%で最も高く、人材不足の理由としては「新規採用が少ない・ない」が50.0%と最も高くなっています。(事業者調査)
- 現状の支援体制に関して「支援体制はあるが人的余裕はない。現場は目の前の対応を行うだけで手一杯である」という意見がありました。(ヒアリング調査)

### 支援・サービスの情報発信・周知方法

- 福祉サービスを利用するときに困ったこととして、「どの事業者が良いのかわからない(事業者の情報不十分)」(45.1%)「どんなサービスがあるのか知らなかった」(42.1%)がありました。(保護者調査)
- 「サービス内容や相談方法を調べるとき、町田市役所のホームページが分かりにくい」「様々な事業所があり、各家庭でもニーズが異なるので事業所選びは難しい」という意見がありました。(ヒアリング調査)
- 支援や福祉サービスに関する情報の入手先として「家族や友人・知人」が41.4%と最も多く、次いで「ホームページやアプリなど」が38.9%でした。(保護者調査)

## <調査間共通設問>

### 2029年度に移転を予定している「子ども発達センター」

- 全ての調査において、複合化後の「子ども発達センター」に求めることについて、「職員・スタッフが充実していること」「複合施設内で他のサービスとの連携が図れていること」の割合が高くなっています。
- 「ハード面だけでなく、各機関・機能の連携等のソフト面の充実が必要」「障がい児や発達に支援が必要と思われる子どもを対象とした医療的機能・体制を強化すべきである」との意見がありました。(ヒアリング調査)

## コラム 「子ども本人の意見」について

町田市では「子どもにやさしいまちづくり事業」を実施しており、子どもに関わる事柄は子どもの意見を聞き、自治体運営に新たな視点を取り入れます。

また、2023年4月に発足したこども家庭庁は、「こどもまんなか」の社会の実現のために、子どもの視点に立って意見を聴くことを求めています。

今回のアンケートでは、子ども本人の回答に保護者が同意した中学生以上に対して、「家庭での過ごし方」「日常生活や学校での生活における希望」「幸福度」「高校卒業後の希望進路」について質問いたしました。回答結果は以下のとおりです。

質問項目	質問内容	回答結果
家庭での過ごし方	ふだん家にいるときは、どんなことに時間を使っていますか。よくしていることをすべて選んでください。	「ゲームをする」が67.2%で最も高く、次いで「インターネットをする」が66.0%、「テレビをみる」が61.1%でした。
日常生活や学校での生活における希望	いままでに、ふだんの生活や学校での生活で「こうなったらいいな」と思ったことはありますか。	「しゅみや楽しいことを見つけたい」が53.8%と最も高く、次いで「同世代の子どもと仲良くなりたい」が44.3%でした。
幸福度	あなたは、いまの自分が幸せだと思いますか。	「そう思う」が31.7%、「どちらかといえばそう思う」が40.5%で、「わからない・答えられない」は15.3%でした。
高校卒業後の進路	あなたは、いま、高校卒業後の進路で考えているものがあれば教えてください。	「働きたい」が32.4%と最も高く、「まだわからない」が32.1%、「もう少し勉強したい」が31.7%でした。

また、町田の丘学園の生徒に「いまの町田市はあなたにとって何点ですか」等の内容でヒアリング調査を実施しました。生徒からは「80点。タバコ等のポイ捨てが駅前や狭い道等にある」「90点。発達支援のイベントや障がい者スポーツ教室が楽しかった」「60点。車いすを使っていて、斜めになるところがある。階段はあってもスロープが無く、入れないことが多い」等の回答がありました。

今回の子ども本人へのアンケートやヒアリングをきっかけとして、発達に支援が必要な子どもに対する事業の実施にあたっては、子ども本人の意見を取り入れ、参画の機会の確保に努めます。